

一年の留学を終えて

後藤千恵

1. はじめに

私がかねてから中国という国に対して興味を持っていました。隣国で、文化的共通点も多い中、日本とは全く別の国という印象を受けること、また様々な問題を抱えつつも広大な国土と膨大な人口を維持していることなど、中国とはどのような国かということについてももっとよく知りたいと思っていました。以上の理由から、「中国の中に入ってみたい」と思ったのがきっかけで、この一年間の山西大学留学に志願しました。

今回の留学の目的はまず、中国語を学ぶこと、そして出来る限り多くのものを見、実際に経験することでした。中国人との会話がスムーズにできるようになることは、相手の考えを知ることだけでなく、こちらの考えも伝えることができることなので、会話能力は「中国の中に入って様々なことを経験したい」という私の目的に必須のことでした。

2. 山西省の気候と文化

山西省は内陸の高原地帯にあり、新潟県とほぼ同じ緯度に位置しています。多くの場所が一年を通して乾燥しており、同じ気温でも湿潤な日本とでは感じ方が違うことに驚きました。

山西省は南北に長く、それぞれの地域で気候も文化も異なります。私は山西大学のある太原市以外に運城市、吕梁市、大同市、忻州市に旅行に行きました。

運城市は山西省最南の市で、関羽の故郷であるとともに、晋商と呼ばれる山西省出身の商人集団の発祥の地でもあります。その歴史と今の姿を見たくて関帝廟と塩湖を見に行きました。塩湖は思ったよりも大きく、見渡す限りの湖と、塩湖を見守るようにして建っている池神廟が印象的でした。

呂梁市の李家山に行った際には実際に黄土の山を歩き、黄河を見ました。その日は伝統的な家屋である窯洞（ヤオドン）に泊りました。また、日中戦争を経験した方とその家族にお会いして少しお話をさせていただきました。

山西省最北の大同市には雲崗石窟や懸空寺などを見に行きました。歴史的な遺産を見ることができたのと同時に、大同市の観光地としての整備がなされている過程の一部分を見ることができましたし、太原では見られない水墨画に描かれるような山の様子が印象に残りました。

忻州市五台山は仏教の聖地として知られている場所で、多くの寺院が集まっている場所です。乾燥した太原とは違った日本の高原のような気候で、7月ですがとても涼しく空気がとてもすがすがしい所でした。私のような観光客と同じくらい、参拝などを目的とした方や僧侶を多く見ました。日本とは違った様式の寺院がほとんどでとても新鮮でしたし、祈る場所としての厳かさや絢爛さを感じることができました。

それぞれの都市の中心部の印象はあまり変わりませんでした。中心から少し離れた町の様子や山や川などの風景はそれぞれ特徴があり、改めて山西省の広さと多様な気候、文化を感じることができました。

3. 日中関係の悪化について

山西大学で学び始めてから1カ月もたたないうちに、2012年9月に尖閣諸島をめぐる日中関係が悪化し、多くのメディアで中国での反日デモなどが報道されたこともあり、色々と感じることもありましたし、考えることもありました。

ここで日中関係について書くべきか迷いましたが、この出来事は私が今まで手の届かない遠くで起きていると他人事のように感じていた国際問題が、自分に直接関わってくる身近な事件となったということから私にとってとても深く印象に残ったのでここで書かせていただくことにしました。

尖閣諸島問題で日中関係が緊張していたことは日本でも十分報道されていたと思いますし、北京などの大都市でのデモの様子を取り上げられていたこともあって、何人かの友人が心配して連絡をくれましたが、山西省は太原市内でごくごく小さなデモが一度起こったということを知りただけでした。

大学内の様子は、表面上はいつもと変わらず穏やかでありましたし、常連となりつつあった豆乳の店のおばさんや山西大学の友人たちもいつも通り好意的に接してくれたので安心しました。

それでも、9月13日に大学側から注意するように、重ねて日本人は大学内から出ないようにと言われ、さらに、15日からは毎食先生同伴で一斉に食べることとなりました。

そして、柳条湖事件のあった18日のみは国際交流学院の中からの外出を禁止され、それから21日まで大学外外出禁止と一斉の食事は続きました。この措置の主旨としては、大学外でトラブルに巻き込まれないようにと、人が集まる食事時を避けるということだったのでしょう。当時は先生方にも色々と気を配ってもらい、とてもありがたいと思いました。

この期間内に外出した友人から、太原市内のクラブで日本の国旗が燃やされていたという話を聞きましたが、私は実際に見ていませんし、状況がよく分からないので真偽のほどは不明です。私が見たものとしては、「魚釣島は中国の領土だ」などという言葉が、中国ではよく見かける垂れ幕のようなものに書かれていたことや、「日本人と犬はお断り」と飲食店の店先に張ってあったこと、さらに、日本車で、トヨタやホンダのマークを中国の国旗で隠して乗っている人が多いということです。また、以前少し話をしたことがあり、私が日本人だと知っているおじさんの店に果物を買に行ったところ、「日本人は……」と色々と言われましたが、早すぎてほとんど聞き取れませんでした。傍にいたおばさんが彼が話すのを止めていたことから、あまりいいことは言っていなかったと思います。

また、話し方などから私が外国人だと分かると、二言目にはどこから来たのかを聞かれることが多いので、当時はどう答えてよいか困ることが多くありました。当時は気軽に日本人とは名乗らない方がいいと思い、ずっと「留学生」で通していました。しかし、大概はどこから来た留学生か聞いてくるので、大学内では言うてしまうこともありましたが、ほとんど聞き取れないふりでやり過ごしていました。この方法でいいのか、また、いつまでこのように気を配らなければならないのかなど、少し必要以上に心配していました。

今年4月、日中戦争を研究している人に同行して、呂梁市の李家山に住む日中戦争を経験したおばあさんを訪ねました。おばあさんが十代の頃、李家山に

日本軍が攻めてきたといいます。その時の様子を、以前この研究者に話してくれました。今回はお礼と御様子伺いのための再訪でした。おばあさんの家族も含め皆さんにごあいさつし、しばらく話をさせていただいたのですが、彼らの方言の強さと私の語彙の少なさから話題を理解するのも苦労するほどで、お孫さんの話がやっと半分ほど聞き取れるくらいでした。以前おばあさんに話を伺った時は通訳を通してだったそうです。当時、家族はおばあさんが戦争の話をするに反対し、この村に住む知人の助けでやっと話を聞かせてもらったようで、改めて現地の方に話を聞くことの難しさ理解しました。また、お孫さんが言っていた「実際私は日本人が好きではないのです」（其实我不喜欢日本人）という言葉が印象的でした。それを私たちに言った意図は分かりませんが、私は何と言ったらよいのか分からず黙っていることしかできませんでした。

私が実際に接したことはこのようなことです。

かつて、日本と中国は戦争をし、日本人が中国人に対して危害を加えたという事は事実であるので、教育などの面を含めても日本に対する反感の気持ちは分かります。だからこそ、今の日本人を見て、接してもらうということが大事なのではないかと思えます。そういった面では、私たちのような留学生が現地の人に接することもささやかではありますが意味のある事ではないかと思えました。

中国において政治と歴史と日常生活が体制的、また心理的にどれだけ密に関わっているか、また日本とは違う意思表示の方法について、起きている現象のみ見えるだけで何も分かっていませんでしたし、今も分かっているとは言えません。しかし、このような時期に中国国内に在ることができ、実際に起きていることや身の回りの人たちの反応などを見つつ、日中問題について考える機会ができたことはとても価値のある経験であったと思えます。

4. 留学中に学んだこと

まずは中国語のレベルを上げることが第一であったので、最終的にある程度中国語でコミュニケーションがとれるようになったことはこの一年間での収穫です。

そして、長期休暇や休日を利用し多くの場所に出かけ、多くの経験ができたこともとても貴重な経験でした。色々な物を見る中で、一つの物事や現象に対してどう接すればよいかわからないこともしばしばありました。

そのような旅行や日々の生活の中でいつも感じていたのは自分の接してきたものがどれだけ狭い範囲のものだったのかということでした。いくら私が現地の文化に慣れず理解できなかつたり恐れを感じたりしたとしても、誰でもそれぞれの場所で、それぞれの常識の範囲内で生活しています。私は生活の中で自分の常識の範囲を現地のものに合わせて広げていくことで次第に現地の文化に慣れていくように感じました。また、それと同時に広い視野を持ち、想像力を働かせて物事をとらえたり、問題を解決することの大切さや必要性がよく分かりました。

私は中国の研究をしに行っただけではありませんし、フィールドワークをしてきたわけでもないので、私がここで書いていることはただの感想にすぎません。ですが、現在の中国を私の限られた視野であるものの、実際に見ることができたことは良かったと思っていますし、その中で考えさせられたこと、感じたことも多くありました。

5. おわりに

私が留学生活を無事に送れたのは、埼玉県国際課の方々をはじめ、山西大学の先生や友人たち、日本の両親や友人たちのサポートがあってこそで、私を様々な面で支えてくれていた方々への感謝も忘れないでいようと思います。

そして、今回の留学で経験したこと、学んだことを「いい経験だった」で終わらせないよう、今後の学習や生活に生かしていきたいと思っています。



約一年間お世話になった山西大学内の留学生寮兼教室の国際教育交流学院です。この写真は2月の春節の際に撮ったもので、新年を祝う飾り付けがされています。



寮の管理をしていたおばさんが、私たちが日本に帰る前に山西省の家庭料理を作ってくれました。この他にも水餃子や豚の耳たぶの酢の物、ジャガイモで作った麺など色々な料理を食べさせてくれました。初めて食べる料理もありましたが、どれもおいしかったです。